

2019年度「専門高校生地域連携推進事業」事業計画書

1 学校番号、学校名、課程

学校番号	28	学校名	岐阜県立大垣桜高等学校	課程	全日制
------	----	-----	-------------	----	-----

2 研究開発の内容等

(1) 学校及び学科(系列)と地域産業との係わりにおける現状と課題

大垣桜高校は家庭と福祉の専門校で生活文化科・福祉科・食物科・服飾デザイン科の4科がある。生活文化科は、被服・食物・保育・福祉に関する内容を幅広く学習し、様々な年代の方々と交流を行っている。本校が位置する墨俣町は、以前宿場町として賑わっていた場所であり、そうした面影のある跡地や施設はあるが、年間を通じ、日常的に観光客が訪れる地域ではない。また、本校周辺の墨俣地域においては、自治体や社会福協議会主催の行事には大勢の方が集う様子や、保育所の入所者数等から、子育てをしている世帯や高齢者世帯が多いと感じている。本校も地域の行事には参加し、地域の方との交流を深めている。しかし、日常に人が集い、交流できる場が少ないという現状がある。

そこで、将来地域で生活する生徒が、安心して潤いのある生活を送ることができる地域づくりに貢献することが望ましいと考えられる。現在、共働き世帯が増加し、昼間の人口は少ない町であるが、地域の課題が何であるかを明確にし、そこから私たちができる課題解決策を考え、実践していきたい。子育て世帯や高齢者世帯が集う地域の交流の場を設けることなど、地域の活性化に繋がるきっかけになる役割を担いたい。

(2) 学科(系列)において育成すべき資質・能力

3年間で、被服・食物・保育・福祉に関する基礎的な知識・技術を身に付け、トータルライフプランナーとしての実践力を付ける事を目指している。卒業後は社会地域の中で、リーダーになれる人材を育成している。

(3) 研究開発テーマと研究開発内容

研究開発テーマ	地域社会を創造する「SAKURAステーション」プロジェクト ～地域の課題を発見し解決策を提案しよう～
研究開発内容	<p>【地域の実態を把握】 墨俣・大垣市・瑞穂市等本校に関連する地域における歴史と文化、商店・宿場町等の調査をし、今後、地域との継続的な繋がりをもつための企画に繋げる。</p> <p>【地域を発展的にとらえたイベントの企画・運営】 学校が地域の架け橋となり、課題を発見・解決し、地域を活性化する方法を企画・運営する。</p> <p>本校の施設や近隣の公共施設を利用し、親子や高齢者等が異世代交流できる場を設ける。</p>

(4) 研究開発計画（校内及び地域での活動）

1 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ・墨俣・大垣市・瑞穂市を始めとする地域の子育て支援や異世代交流の現状を調査し、課題を明確にする。 ・岐阜大学と連携し地域の課題解決の手法を学び、実践に生かす方法を考える。 ・地域や専門学校等、専門家から課題解決の手法を学び、実践に生かす方法を考える。 ・他学科、他校と連携できることは、提案し具体化する。 ・地域のリーダーとはどうあるべきかを考え地域ごとのグループ活動で交流し実践する。
-------------	---

2 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目に行った子育て支援センターとの連携で年度末には本校へ招いて活動できた。参加された方からは継続の声をお聞きでき、反省点を生かしてさらに良い活動を実施する。 ・糺を使った商品開発を進めたので、それらを地域の企業と連携して販売する。 ・地域ごとに、課題解決のための学習内容を充実させ、生徒主体で活動を行う。 ・被服・食物・保育・住居の生活に関する分野で専門家からの講義や講習を受け、地域交流活動にて実践できる知識・技術を身に付ける。 ・墨俣の町民力、大垣市民力、地域力等を高めるSAKURAステーションを始動する。
-------------	--

(5) 研究開発の目標と評価指標

	研究開発の目標	評価指標及び評価方法
1 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を把握する方法を知る。 ・現状把握から地域の課題を発見する。 ・外部講師による講習会や講演会で技術を身に付け、理解を深める。 ・自分の役割を決定し、継続的にまた主体的に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究委員会での評価 ・運営推進委員会との評価 ・イベントの実施後の地域からの評価 ・展示作品・研究発表の評価
2 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民が参加できる異世代交流の場を企画し、地域の繋がりに貢献する。 ・地域交流の継続的な運営の見通しを立てる。 ・地元の銘菓の開発と、地元で眠る着物に新たな命を宿す製作をする。 ・学校を核とした情報ステーション「SAKURAステーション」の設置をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究委員会での評価 ・運営推進委員との評価 ・地域の行政やイベント実施時の参加者からの評価 ・展示作品・研究発表の評価

3 研究組織（予定で記載）

(1) 研究担当者（研究主任は氏名に○印、実行準備委員は△印を付すこと。）

氏 名	職 名	担当教科(科目)
猿井 久美子	校長	家庭
乙津 真由美	教頭	家庭
瀬下 裕基	教諭（教務主任）	家庭（ファッション造形・課題研究）
○ 郷 絵美	教諭 （生活文化科長）	家庭（ファッション造形・家庭総合・課題研究）
永沼 眞理	教諭	家庭（調理・課題研究）
新川 幸子	教諭	家庭（子どもの発達と保育・ファッション造形・課題研究）
高橋 千智	教諭	家庭（子どもの発達と保育・生活産業情報・課題研究）
△宮嶋 瑞央	教諭	家庭（ファッション造形・家庭総合・課題研究）
渡邊 大知	教諭	家庭（フードデザイン・調理・課題研究）
桶仕 奈那	教諭	家庭（フードデザイン・課題研究）

野々村 直子	常勤講師	家庭（生活産業情報・調理・課題研究）
澤田 尚子	教諭 （服飾デザイン科長）	家庭（ファッション造形・ファッションデザイン）
高橋 路子	教諭 （食物科長）	家庭（調理・栄養・食品衛生）
大平 真木子	教諭 （福祉科長）	福祉（介護演習・生活支援・こころとからだの理解）
西村 佐江子	教諭 （進路指導部長）	国語
近藤 好弘	教諭 （特別活動部長）	美術
松本 真美	実習助手	会計

（2）運営推進委員

氏 名	所属・役職	備考（専門分野など）
大宮 康一	岐阜大学 特任准教授	地域協学センター
宇野 恵利子	株式会社 羽島企画 トータルケア Mama's	起業家・卒業生